

# 10月の果実の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
りんご類		7,830	102%	8,402	320	91%	267	1,281	16.4%	9月下旬から各種中生種の出荷が本格的に始まって状況は一転。これまでの「つがる」を中心とする早生種は鮮度重視の販売であったが、中生種からは食味重視に。外気温も下がって消費環境が良くなると同時に各県オリジナル品種も出てきてバラエティに富んだ品揃えとなって売り場も拡大。前年は貯蔵品から続く高値基調を9月上旬に価格をリセットできたことが中生種以降の堅調な販売に結びついた。本年も9月前半にかけてりんご類の価格は下げ基調となっているが、全体に作柄も悪くなく、9月下旬から持ち直して10月は月通じて安定した価格推移となろう。
なし類 (日本なし、西洋なし)		4,078	86%	4,533	312	93%	268	553	13.6%	前年の日本なし類は不作で少なく、特に苦戦する場面もなくスムーズな販売であった。本年は前年より1週間程度出回り時期が遅く、9月上旬までは品薄感もあって価格高の状況であったが、中旬以降徐々に弱含みの展開に。各産地「豊水」は9月いっぱいではほぼ終了となり、10月は「新高」や「あきづき」「南水」「にっこり」等の晩生種中心の販売に。他の秋果実も豊作基調でライバルは多いが、現在の売り場を維持しながらの販売が展開されよう。
かき類		8,692	107%	9,270	265	94%	234	189	2.2%	主産県の柿生産面積は昨年の98%で出荷量は着荷量から見て平年並みからやや多く107%。肥大状況は平年並みからやや小玉になり、病害虫の被害はほとんど無く生理落果も少ない。好天続きで高温傾向のため日焼け果の発生も一部あることから、例年より小玉や下等級の販売が多くなると思われる。
ぶどう類		2,251	105%	2,858	1,062	100%	793	147	6.5%	露地ぶどう全体に生育遅れから前年に比べ遅い出荷になっている。そのため10月の販売数量は前年に比べ多くなる予想である。また、黒系のぶどうは色付きが良くなり赤玉中心になると思われ、全体数量があるのは10月中旬頃までだが、10月いっぱいの販売はできる。